

共に北海道の未来を創る
第9期北海道総合開発計画

釧路川

祝

選奨土木遺産 認定
旧岩保木水門

令和6年11月21日
釧路開発建設部

「旧岩保木水門」の選奨土木遺産の認定を報告します

～釧路町への受賞報告・パネル展開催～

令和6年9月24日に「旧岩保木水門」が、釧路市街地や釧路港の発展を支えた歴史的な土木構造物として、公益社団法人土木学会の選奨土木遺産に認定され、令和6年11月18日に受賞式が行われました。

つきましては、当施設の所在地である釧路町へ受賞報告するほか、記念したパネル展を開催しますので、お知らせします。

○受賞報告

日時：令和6年11月26日(火) 10:00～ (15分程度)

場所：釧路町役場 応接室 (釧路町別保1丁目1番地)

○パネル展示①

期間：令和6年11月21日(木) ～ 11月27日(水) 9:00～17:00

場所：釧路地方合同庁舎 1階ロビー (釧路市幸町10丁目3番地)

○パネル展示②

期間：令和7年1月15日(水) ～ 1月23日(木) 9:00～17:00

場所：釧路町役場 1階ロビー (釧路町別保1丁目1番地)

※ 土木学会選奨土木遺産ウェブサイト (<https://www.jsce.or.jp/contents/isan/>)

※ かわたびほっかいどう 旧岩保木水門 (<https://kawatabi-hokkaido.com/2024/09/26/28570/>)

【問合せ先】国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部

治水課 課長 渡邊 一靖 電話：0154-24-7250 (内線 3291)

治水課 流域治水対策専門官 稲垣 乃吾 電話：0154-24-7250 (内線 3288)

釧路開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/ks/>





旧岩保木水門が選奨土木遺産に認定

旧岩保木水門は新釧路川（釧路川新水路）整備に伴い、平水時には木材運搬等の用途で釧路川へ分水し、水利水運の便を計ること等の目的で、1927年から1931年に建設された水門です。釧路市街地や釧路港の発展を支えた歴史的な土木構造物として、令和6年度に公益社団法人土木学会の「選奨土木遺産」に認定されました。



地域の発展に寄与



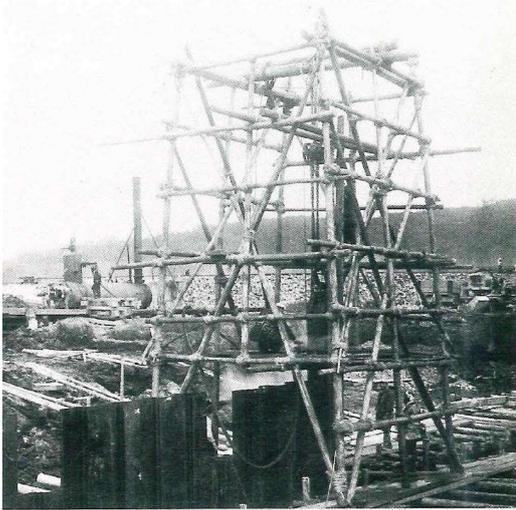
水門完成後、釧網線の全線開通に伴い、木材の輸送が陸上輸送へ転換していったため、水門は閉じたままとなりましたが、岩保木水門は釧路港の発展、道東の中心都市・釧路の発展をという歴史を支えた事業を伝える貴重な施設です。

釧路川河口の重要港湾釧路港は、東港区が水産業の一大拠点として、また、西港区は東北海道の国際物流拠点として発展

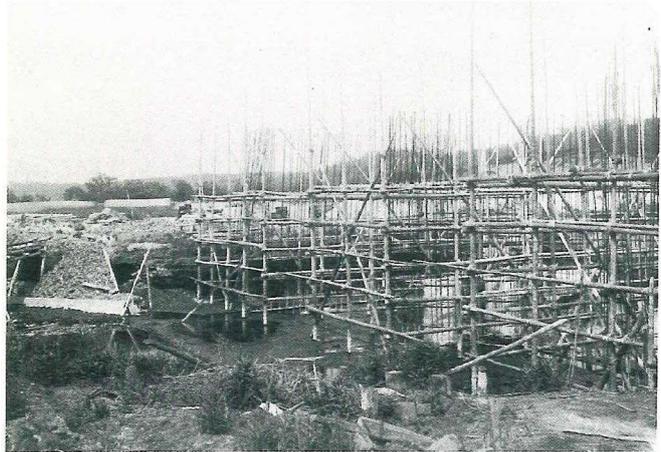


旧岩保木水門 完成までの変遷

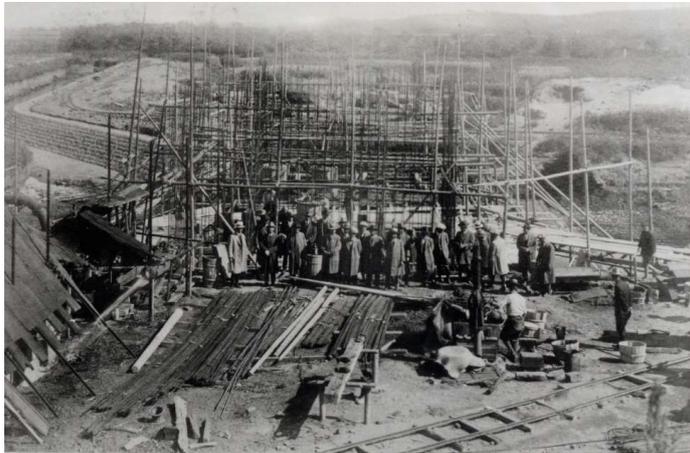
旧岩保木水門は1927年着手し、1928年～1930年までに基礎工事、本体コンクリート打設が実施されました。1931年9月19日新水路（新釧路川）の通水式とあわせて岩保木水門が完成しました。



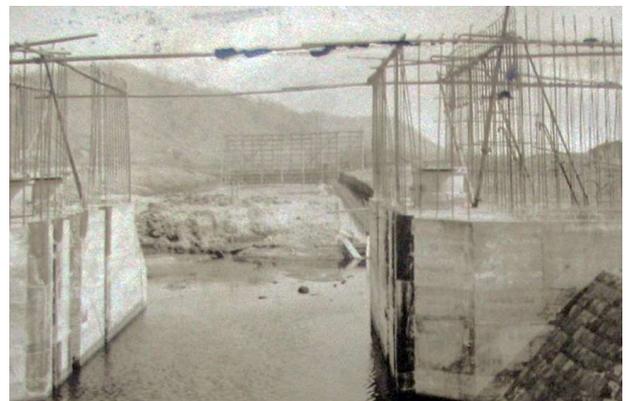
基礎部分は土砂流動による洗掘防止のため遮水工を実施。当時としては最新技術のシートパイル（鋼矢板）を採用



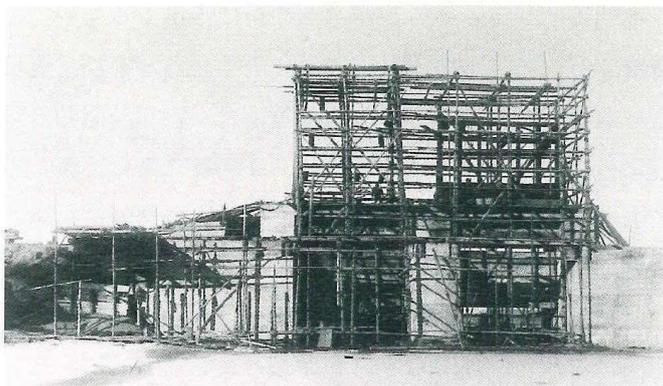
1928年夏頃の様子。間知積護岸の施工と基礎工事の実施状況。



1928年秋頃の様子。間知積護岸が完成している。



1929年頃の様子。水門下部の一部が完成し、上部の鉄筋が確認できる。



1929年頃の様子。水門門扉を取付けて門柱コンクリートを打設したものの。



1931年9月19日新釧路川通水式と岩保木水門の完成。



選奨土木遺産とは

土木遺産の顕彰を通じて歴史的土木建造物の保存に資することを目的として、公益社団法人土木学会が平成12年に認定制度を設立しました。

これまでに北海道内では、小樽港北防波堤（小樽市）、新釧路川（釧路市、釧路町）、標津橋（標津町）、岩保木水門（釧路町）、奥行臼の交通施設群（別海町）など55構造物（令和6年度現在）が選奨されています。



記念銘板



旧岩保木水門

(参考) 新釧路川 (平成26年認定)



新釧路川は「釧路市に甚大な被害を与えた大正9年洪水を契機に開削され、洪水対策に加え、釧路港への土砂流入を防ぎ、地域の発展を支えた施設」として、その功績が認められました。